

会務案内

日本天文学会 1994 年度秋季年会記事

1994 年度秋季年会は 10 月 12 日(木)~14 日(金)の 3 日間、北海道大学学術交流会館の大講義室、小講義室、第 3 会議室の 3 会場を使って開催した。口頭 (10 分)、口頭 (3 分)+ポスター、口頭 (3 分)、ポスターによる発表講演数はそれぞれ 117, 178, 30, 56 である。なおポストドラインペーパーは 1 件であった。各会場の座長には次の方々をお願いした。今回は、年会の開催方法のよりよい解を探るための試行の 2 回目ということであった。坂下・羽部両氏を中心とする北大関係の方々のご努力で大変盛況に行われたことをまず申し述べます。

12日(木)	9:15-10:30	11:00-12:00	13:00-15:00	16:00-18:00
A	吉田春夫	梅村雅之	郷田直輝	谷口義明
B	柴崎徳明	柴崎徳明	常深 博	茂山俊和
C	小杉健郎	渡邊鉄哉	黒河宏企	柴田一成
13日(木)	9:15-10:30	11:00-12:00		
A	井上 一	井上 一		
B	稲垣省五	水野孝雄		
C	坪井昌人	坪井昌人		
14日(金)	9:15-10:30	11:00-12:00	13:00-15:00	16:00-18:00
A	祖父江義明	祖父江義明	川辺良平	羽部朝男
B	山本哲生	近田義弘	唐牛 宏	馬場直志
C	中野武宣	中野武宣	水野 亮	富阪幸治

<記者会見>

秋季年会の前日 19 時から北海道庁別館教育庁記者クラブで記者会見を行い、次の点について解説した。

話 題：天文学会春季年会 (10 月 12~14 日) トピックス

1) 外惑星系 55 億年の数値シミュレーション
木下 宙, 中井 宏 (国立天文台)

2) シューメーカー・レビー第 9 彗星の木星衝突
渡邊潤一 (国立天文台), C. Norman (STScI)

また、10 月 14 日午後開催される総会では、シューメーカー・レビー第 9 彗星の木星面衝突を世界に先駆けて予測した中野主一氏に、天文学特別功労賞を授与する予定も伝えた。更に 10 月 15 日(土)に予定されている公開講演会については C. ノーマン氏にも加わっていただき説明した。

<臨時総会>

臨時総会は 2 日目 (14 日) 午後 3 時から臨時総会が行われた。中野主一氏への天文学特別功労賞は、総会の議決を経て授与されることとなった。シューメーカー・レ

ビー第 9 彗星の木星面衝突を世界に先駆けて予測しえたのは氏の長年にわたる小惑星・彗星の軌道計算の業績に立脚する成果といえます。年会方法の議論は春の年会から始まり、今回は試行の 2 回目ということで、アンケートの結果について、また秋季年会に参加されたの会員の皆様のご意見を伺った。次回の春季年会の結果を併せて、最終的な検討を行いたいと考えている。定款の改訂に関する説明をワーキング・グループ委員長の唐牛氏が行い、その議論を開始する端緒とした。定款改訂の必要性・緊急性、またワーキング・グループで議論されて来ている新しい定款の基本的な考え方について説明し、意見交換を行った。総会出席者は 150 名であった。

<天文教育フォーラム> 2 日目の午後 1 時から、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラム、「今、天文学で何を教えるべきか」が開催された。講演における天文教育セッションの新設とも相増して、当日はタイトなスケジュールに関わらず多くの参加があった。

<懇親会>

2 日目の午後 18 時 30 分からサッポロビール園で懇親会が行われ、220 名の参加者があった。近年にない趣向をとり入れて、お土産が当たるなどして大変好評であった。北大関係者のご努力に敬意を表する。

<公開講演会>

10 月 15 日(土)に同じく北大の学術交流会館を利用して、公開講演会を行った。講師には国立天文台の海部宣男教授並びに宇宙望遠鏡科学研究所 (STScI) の C. ノーマン教授をお招きした。講演のタイトルは、
New Cosmology from HST
C. Norman (Space Telescope Science Institute)
すばる望遠鏡が切り開く天文学
海部宣男 (国立天文台)

であった。ノーマン氏の講演には同時通訳がつき、始め多少の混乱があったものの、事前の入念な打ち合わせのいかもあり、好評であったと理解している。シューメーカー・レビー彗星からハッブル定数まで、鏡の補正がなった HST の最新の結果について話された。海部教授の講演は、目下ハワイ・マウナケア山頂に建設中の 8 m すばる望遠鏡のお話して、この望遠鏡で行うサイエンスについての解説があった。値段がいくらですかという聴衆の質問に、国民全員からひとり 400 円程度ですというやりとりが印象的であった。

渡邊鉄或 (年会実行委員会)

天文月報海外速送サービス

海外在住会員の方々が天文月報を速く入手できるように、SAL便の取扱サービスを有料で行っております。ご希望の方は下記の要領にしたがってお申し込み下さい。

1. サービス料金：1年間2400円、年会費と併せて1年ごとに納入して下さい。
 2. 申し込み：原則として年1回(4月期のみ)受け付けとします。締切前に学会へ届くように、送付先・氏名・会員番号を明記の上、書面でお申し込み下さい。書式は問いません。ただし、会費納入後に渡航が決まった方のための便宜措置として、10月期を設けます。
4月期=2月末日までに次年会費と併せて前納して下さい。
10月期=7月31日までにサービス料金を前納して下さい(会費既納のこと)。[これは、年度途中で渡航が決まった方のみ経過措置サービスです。さらに継続を希望する場合は翌年の4月期に忘れずにお申し込み下さい。料金は1200円です。]
 3. サービス期間：1年単位。4月号から発送します。10月期の場合は10月号から半年間発送します。
4月期=4月号～次年3月号(例：1994年1月31日までに申し込んだ方は1994年3月20日発行の4月号～1995年2月20日発行の3月号)に適用します。
10月期=10月号～次年3月号(例：1994年7月31日までに申し込んだ方は1994年9月20日発行の10月号～1995年2月20日発行の3月号)に適用。
 4. 更新：申し込み締切までにご連絡のない場合は、次期のサービスを打ち切り、船便とします。**自動更新はいたしません。**
 5. 清算：サービス期間途中で日本へ帰国するなどの理由でサービスを受ける必要がなくなった場合は、帰国後にお申し出になった時点で送料の清算をいたします。送付先が変更になった場合は至急ご連絡下さい。
 6. 問い合わせ：ご不明な点は学会事務室までお問い合わせ下さい。(本誌奥付参照)。
- 注1. SAL便では、海外宛のパフレット・書籍等は、日本から約2週間で送られます。
- 注2. SAL便が取り扱われていない国については、同一手続きで航空便でお送りします。(料金は異なります。)
- 注3. SAL便サービスの申し込みをされない方は従来どおり、送料学会負担で船便送付とします。

(天文月報編集委員会、会計理事)

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員(ポスト・人数など)、2. (1)所属部門・所属講座、(2)勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1)着任時期、(2)任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1)提出先、(2)問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他(待遇など)

香川大学教育学部教官

1. 講師または助手 1名
2. (1)教育学部理科教育講座 (2)高松市幸町1-1 香川大学教育学部
3. 地球惑星科学
4. 地学に関する専門教育科目および教養科目の講義・実験・実習を担当する予定
5. (1)平成7(1995)年4月1日
6. 博士の学位を有する方、または近い将来博士の学位を取得見込みの方で、採用時に31歳未満の方。
7. (1)履歴書(市販のものに写真貼付のこと) (2)研究業績調査書(口頭発表を含む。本学指定の書式によること) (3)主要な著書及び論文の実物または抜き刷りもしくはコピー (4)研究経過および研究計画の概要(1200字程度) (5)学会および社会的活動の一覧表(本学指定の書式によること) (6)健康診断書(国・公立の病院または保健所において発行したもの) (7)本学部長あての推薦書 (8)卒業および修了証明書
8. 平成7(1995)年1月9日(月)必着
9. (1)〒760 高松市幸町1-1
香川大学教育学部長 近藤浩二
(2)同学部地学教室(教授 森 征洋)
電話 0878-36-1688 FAX 0878-36-1962
10. 封筒の表に「理科教育講座教官応募書類」と朱書きのうえ書留で郵送してください。「研究業績調査書」および「学会及び社会的活動」の書式に関しては、お問い合わせ願います。
11. 平成6年10月現在、地学教室には次のスタッフがいます：水野浩雄(教授、地球物理学、平成7年3月末定年退官予定)、森 征洋(教授、気象学)、仲谷英夫(助教授、古生物学)、松村雅文(助教授、天文学)、寺林 優(講師、岩石学)。

研究助成

天文学振興財団 1995 年度研究助成公募

国立天文台の事業支援を通して天文学の振興を図る財団が発足し、1994 年度の研究助成を「ASCA 広域深宇宙探査の光学追跡観測」(太田耕司氏：京都大学)に対して行うことを決定しました。また 1995 年度の研究助成希望者を下記の要領で公募します。

尚、当財団では天文学に関する広報普及活動や国立天文台関連の国際交流支援のための事業計画もたてています。財団を支えて下さる賛助会員(1口 20 万円/年)を広く民間から募っていますので、ご協力をお願いします。
1994 年 12 月 1 日

天文学振興財団 理事長 古在由秀

1. 対象：天文学に関連する優れた研究活動を行おうとする個人又は団体の代表者。原則として 35 歳以下。
2. 助成：1 件 100 万円。選考委員会で審査の上、採択の可否については 3 月頃に決定の予定。年度末には報告書を提出していただきます。
3. 申請：申請書は事務局あて封書(返信用封筒・長型 3 号を同封のこと)により請求して下さい。申請書の提出締切は 1 月 31 日必着
4. 問い合わせ先：天文学振興財団事務局
〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台内
Tel：0422-34-3659
Fax：0422-34-3690

アサヒ・フェローシップ (朝日国際奨励金) のご案内

目 的

将来性ある外国の学者、芸術家、ジャーナリスト等の日本国内における研究活動を援助する。

応募資格

- 1) 外国籍の個人(日本永住権のあるものを除く)
- 2) 大卒またはそれにふさわしい経験を持つ者。学術研究分野は、Ph. D 取得者もしくはそれに相当する学識をもつものが望ましい。
- 3) 研究上、日本に滞在する必然性のある者。
- 4) 現在、日本に滞在中の者、今後長期に亘って滞在する予定の者、来日が既に決定している者は受け付けない。
- 5) 日常生活に事欠かない程度の日本語を話せることが望ましい。
- 6) 研究活動に支障のない健康状態であること。
- 7) 年齢制限はないが、滞日活動終了後自国において、そ

の経験を生かして発展的活動ができる将来性のある者。

採用人数

2～4 人

滞日期間

9 月から 1 年間(1 年以上の滞日は認めない)

支給内容

総額 1500 万円(往復航空券は支給する)

応募締切

1995 年 2 月末日まで。

申請用紙は天文学会あるいは、アサヒ・フェローシップ事務局まで請求のこと

問い合わせ、郵送先は下記まで。

〒104-11 東京都中央区築地 5-3-2

朝日新聞社 文化企画局 文化・スポーツ部
アサヒ・フェローシップ事務局

電話：03-5565-3849, 03-3545-0131(54218)

ファクス：03-3543-3280

研究会・集会案内

第 17 回宇宙ステーション利用計画ワークショップ開催のご案内

第 17 回宇宙ステーション利用計画ワークショップを下記のとおり開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

1. 主 催：科学技術庁
宇宙開発事業団
(財)宇宙環境利用推進センター
2. 開 催 日：1995 年 1 月 18 日(水)、19 日(木)
3. 会 場：東京都千代田区平河町 2-7-5 砂防会館
4. 参 加 料：無 料
5. 内 容：全体会合の他、材料、ライフサイエンス、理工学・通信、観測の 4 分科会において、国内外の専門家を招き、宇宙ステーション利用計画の現状及び関連する宇宙実験プロジェクト等の紹介並びに宇宙ステーション利用計画に関する討論を行う。(同時通訳有り)
6. 参加申込：事前に氏名、住所等を郵送又は FAX にて、下記までお知らせください。なお、申込みの無い方でも参加できますが、会場設営の都合上なるべく事前にお申込み願います。
6. 申込及び 問合せ先：〒169 東京都新宿区西早稲田 3-30-16
(財)宇宙環境利用推進センター
TEL：03-5273-2442 (門沢)
FAX：03-5273-0705

1995年地球惑星科学関連合同大会

日時と会場:

1995年3月27日(月)~3月30日(木)

日本大学文理学部

(〒156 東京都世田谷区桜上水3-25-40)

新宿より京王線下高井戸または桜上水から徒歩10分
固有セッションあるいは共通セッションの講演申し込みは、**1995年1月9日(月)**必着でお願いいたします。

シンポジウム

受付No.	名称
3	湖沼堆積物 —地球環境変動の「高精度検出計」—
5	固体地球と流体地球のカップリング・ダイナミクス (II)
6	全地球史解説—有機地球化学・古生物学からのアプローチ
11	陸上学術ボーリング
16	合成開口レーダー技術の地球科学への応用
20	MUレーダー観測の十年
8&22	シューメーカー・レビー9彗星の木星衝突
23	惑星環境と生命の起源

共通セッション

受付No.	名称
1	マントル・核の物性と進化
2	大陸地殻の構造と進化
4	ローカルな地殻活動の監視と解釈
17	最近のポアホール(地殻変動連続)観測計器の進展と今後の可能性について—地震予知観測のブレイクスルーを目指して—
7	テクトニクス
9	惑星の地形・地質
10	中央海嶺系研究のグローバルな展開
12	マグマ: その発生と挙動及び地球進化に果たす役割
14	マグマと地下水の相互作用
13	地震発生の物理過程: 発生の場とモデリング
15	内陸地震の発生と火山の深部構造
18	地球惑星物質科学におけるカイネティクス
24	近地球型小惑星の性質および地球への影響

第7回 日本天文学会研究奨励賞受賞者の推薦について

本会は優れた研究成果を挙げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しております。授賞

資格は

イ. 日本天文学会会員で、最近3年間における天文学への寄与が顕著なるもの

ロ. 当該年度内で35歳以下のもの

です。平成7年度の授賞候補者の推薦を受け付けます。1995年1月30日(必着)までに日本天文学会研究奨励賞選考委員会宛にご推薦下さい。

なお、その際、主要論文リストも添付していただければ幸いです。選考結果は研究奨励賞内規—4.ハに従って、その候補者を評議員会に推薦致します。

日本天文学会早川幸男基金募集要項

日本天文学会 早川幸男基金(若手海外学術研究援助基金)内規に基づき*, 海外学術研究に対して援助を希望する者を募集(1995年度4期分)致します。

1. 援助金総額 年間約100万円

2. 援助件数 年間数件程度

3. 募集対象機関 1995年4月1日~6月30日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わずすでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。

4. 応募必要書類(A4紙に統一すること)

(1) 応募用カバーシート(天文月報87号11月号の応募用紙をA4に拡大コピーして使用する)

(2) 論文リストおよび関連研究論文の写し(一編)

(3) 観測については、観測割当通知および観測提案の写しかそれに準ずるもの

(4) 国際共同研究については、渡航先の招聘状および研究計画の概要

(5) 研究集会参加については、当該研究会開催の主旨を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与(口頭発表等)を証明するもの

(6) 大学院生の場合、研究指導者の意見書

(7) 航空運賃の見積書

5. 応募締切 1995年3月10日

6. 決定時期 1995年3月下旬

7. 応募書類送付先

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内

日本天文学会 早川基金募集係

*早川基金内規(天文月報第85巻第12号参照)による援助対象資格は「日本天文学会会員で、原則として35歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費(滞在費を除く)の援助を受けない者。」です。

1995年度は6, 9, 12, 3月の10日締め切りで募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。